

とびひを伴う全身湿疹から 3 か月で傷が減り白斑が軽減した小児アトピーの経過 (5 歳 女児)

症例 ID：001-05-KY2 | 記録日：2015 年 3 月 29 日

1. 診断・治療前経過

2014 年 8 月、5 歳時に赤い小丘疹と、とびひ様の浸出性症状が出ました。背中、耳、顔を中心に広がり、自然療法を試しても周囲の赤みが増しました。

幼児期には複数の外用薬を使用しており、リンデロンの使用歴もありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼児期にあせもや外傷などで複数の外用薬を使用し、リンデロンの使用歴もありました。今回の症状では、近医からステロイドと抗菌薬の混合外用薬を処方されました。
製品名	リンデロン。ほかにエキザルベ、アクアチムなどの使用歴があります。
強度	リンデロンを含みますが、剤形と強度は不明です。
使用期間	3 歳頃まで断続的に使用しました。
中止時期	不明です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。今回処方された混合外用薬の使用有無は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2014 年 8 月	発症	赤い小丘疹と、とびひ様の浸出性症状が出て、背中、耳、顔へ広がりました。
同時期	治療開始	抗菌薬、赤色・黄色の外用薬による処置を開始しました。
治療経過中	漢方入浴	入浴後に背中の湿疹が目立ちましたが、とびひ様の症状は早期に軽減しました。
治療約 3 か月	回復傾向	毎日の外用を続け、皮膚症状は大きく軽減しました。顔の赤みと白斑が残りました。
2015 年 3 月	記録時点	顔の赤みは残るものの、白斑は軽減し、傷もほとんどみられなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、顔を中心にとびひ様の浸出性症状が広がり、強いかゆみで本人と家族の気持ちが落ち込んだ時期です。

5. 困りごと

- 顔、背中、耳の浸出性症状に対し、1 日数回の外用処置が必要でした。
- とびひとアトピーの区別が分からず、遠方から相談・治療を続ける不安がありました。
- 顔の赤みと白斑が長く残りました。

6. 経過のまとめ

治療約 3 か月後には傷がほとんどみられなくなり、2015 年 3 月には白斑も軽減しました。

顔の赤みは残っていましたが、食事や外遊びを制限せず、普段どおりの生活を送っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。